



## KONICA MINOLTA

コニカミノルタ株式会社  
人事部 人財育成グループ マネジャー  
宮澤一宏 様



### コニカミノルタ株式会社

事業内容：複合機・プリンター等情報機器事業、ヘルスケア事業、産業用材料・機器事業  
資本金：37,519 百万円  
従業員数：連結 43,979 名（2017 年 3 月現在）  
連結売上高：9,626 億円（2016 年度）  
<https://www.konicaminolta.com/>

### IoT 技術入門講座

#### 講座のねらい

これから IoT 事業に関わる主にデバイスメーカーのエンジニアの方が IoT の技術面の概要について理解できるよう、IoT の全体概要と、IoT を構成するデバイス、IoT で行うデータ通信とサーバー接続にフォーカスして解説します。本講座は、IoT の概要を理解するための概論です。

#### 対象者

- ★IoT の技術面の概要を学びたい方
- ★デバイスメーカーのエンジニアでこれから IoT に関わる方
- ★M2M や IoT システムの構築・保守運用に携わる IT エンジニア

#### レベル

電気の基礎知識・プログラミングの基礎知識をお持ちの方であれば理解が容易ですが、前提知識がなくても学習できます。

#### 到達目標

IoT とは何か、IoT でどんなサービスが実現できるか、IoT に必要な要素技術は何か、など基礎レベルの IoT の概要を理解します。

### IoT は全社員が知っていなければならない、最低限のリテラシー

―御社では「IoT」というキーワードをどのように捉えていますか。

世の中が Industry4.0、新しいデジタルの時代に動いている中、当社としても「社会課題提起型デジタルカンパニー」に向けて大きく舵を切っています。世間的には当社を B2B の会社と思われる方も多いかもしれませんが、B2B の先にいる Person(お客様)の課題を先取りして解決し、人・社会のための新しい価値創造を実現していくことを目指した「B2B2Person」へのビジネス・トランスフォームを中期経営計画でも掲げて取り組んでいます。グローバル社会から必要とされ、進化し続けるイノベーション企業となることでお客様と社会に貢献することが、当社にとって最大の目標です。

そのような中で、当社が強みとする光学やセンシング、画像処理の技術とデジタルを組み合わせ、より一層お客様の身近にある課題を解決することやビジネスの生産性を向上させ働き方を変革していくには IoT 技術は当然必要なもの、外せないキーワードだと思います。新中期経営計画「SHINKA2019」でも新規事業について「IoT ビジネスで社会課題解決・顧客価値創造」を大きな方針として掲げていますし、社内でも IoT というキーワードは頻繁にでできます。

そんな社会や当社の中の状況もあり、IoT については、技術者だけが知っていればよいというものではなく、リテラシーとして、社員全員が最低限身につけておかなければならない時代がやがて来ると考えています。

ビジネスの一例としては、エッジ IoT プラットフォーム「WorkplaceHub」やガス漏れ検知の監視ソリューション、介護現場でのケアサポートソリューション等、多岐に渡る製品・サービスの展開を図っています。

### 高めて伸ばしていかなければならないスキル

―IoT 人材の育成について、どのように取り組んでいますか？

IoT を必要としている人にも当然色々あって、開発している人にはハイレベルな技術が必要ですが、これから新規事業を起こしたり間接部門のスタッフにも会社が変わっていく中で、昔は PC を使ったことがない人がいたけど今ではそんな人は会社にはいないのと同じように、当たり前「IoT って何だ」というのを知っていないといけない。当社では「コニカミノルタカレッジ」という人財育成の仕組みの中に IoT のテーマを組み込んでおり、全員が高めて伸ばしていかなければならないスキルの一つとして位置付けています。

―IoT 人材の育成について、どのような課題がありましたか？

当社社長自ら、技術職だけでなく営業や間接部門を含めた全員に対して IoT の必要性を強く発信していることもあり重要性は理解していましたが、「じゃあ何をしなければいけないのか」を自分たちで考える部分で苦労しました。コニカミノルタカレッジでは様々なコンテンツを用意していますが「適切な教材を探す」ということが課題となりました。IoT の言葉の意味といったような本当初に初歩的な内容の教材はありましたが、技術的な面にも一歩踏み込んで IoT 技術について学べる、ちょうどよいレベル感のものとなると、色々探した中で、工学研究社の「IoT 技術入門講座」しかありませんでした。

## —教材の内容はどうか？

まずテキストがしっかりしていました。やはり技術的な内容なのでそんなに簡単なものではありませんが、世の中にあるIoTの教材というと、「IoTとはこういうものですよ」といういわゆるIoTという言葉の意味を知ることができる程度の本当に入口レベルのeラーニングぐらいしか見つからず、そこから先に一歩進んだ教材というのは実は無くて困っていました。できるだけ受講者の裾野を広げるという観点から、エントリーからミドルぐらいのレベルの教材が必要でしたが、その点でもこの講座の設定するレベル感とはうまく合いました。

テキストの「実践開発編」では、デバイスや画面の写真なども多く、少し本格的にやってみようかという人にも使いやすそうだと思います。確認テストの問題が多く用意されていたことも良い点でした。最近ではeラーニングという選択肢もありますが、やはり通信講座で手元にテキストが残るといったのは良いと思います。

## 乗り遅れば、あっという間に置いていかれるという危機感

—当初の想定よりも多くの受講希望者が集まったとのことですが。

やはり、かなりの人がIoTで何かやりたいと考えているんだなということはあらためて我々も感じました。手上げ式で申し込みを募りましたが、結果的に予定していた定員を大きく超える応募がありました。通常だと予算の関係で定員を超えた場合は抽選になり次回に回ってもらいますが、今回は特にい会社全体がIoT関係のソリューションビジネスを目指している中にもありましたので、ここで半年・1年先まで学習機会を損失するよりも、いまず希望者全員に受講してもらえるように色々工夫をしました。

—どのような方が受講されましたか。

やはり技術開発職が多かったですが、中には事業企画、品質管理、知財などといった部署の人もいました。直接的にIoTに関わっていて今すぐ何かをどうこう、というところではないそういった人たちでも1割ぐらいは申し込みがありました。年代も20代・30代・40代とで同じぐらいの数が申し込んでおり、50代といったベテランの人たちの申し込みも少なくない数がありました。

—工学研究社の受講実態調査でも業界や職種・年代に関わらず、あらゆる方が受講しているというデータが出ています。

IoTというテーマは、いろんな会社が成長するビジネスチャンスでもありますし、逆にここで乗り遅れるとあっという間に置いていかれるという危機感もあるでしょうね。

—今後のIoT人材育成について。

受講する側もまだまだ漠然とIoTを知りたい・学びたいというのが現状であって、具体的に「この技術について学びたい」という細かいところまで明確な人は少ないと思います。まずは全体像を学んだうえで次の段階として今後さらに様々な学習ニーズが出てきたときに、いろんな種類の教材がラインナップとして充実してくると我々としてはありがたいですね。

